

再話が中学生の英文読解に与える影響

前田 宏美

（東京都・葛飾区立四ツ木中学校）

発表要旨：

教室における英文読解指導では、生徒が英文を読んだとき、その内容をどのくらい理解しているかは教師の発問に対する答えにより確認されることが多い(卯城 2010)。しかし、教師は生徒に産出活動を行わせることにより、読解を促進させることができる(Gambrell, et al., 1985)。産出活動には、要約したり、話の内容を絵に描いて表したりする他、題名を考える、主題を述べる等、さまざまな活動がある(Gambrell, et al., 1985)。数ある産出活動の中から、再話(以下、リテリング)は「過去に行ったこと、見たもの、読んだことについて語る言語活動で、私たちが普段の生活の中でよく行っている(卯城 2010)」活動であることから、教室での実践に取り入れている。教室内の実践に基づき、前田(2016)では、日本人中学生英語学習者(30名)を対象に、リテリングが英文読解に与える影響について検証した。日本人中学生英語学習者が、英検 3 級・4 級の読解問題について、(1)リテリングして読解テストを受ける手順と(2)リテリングなしで読解テストを受ける手順に取り組んだ。学習者による読解テストの得点によりテキスト理解度を測り、リテリングの内容を Idea Unit (Ikeno, 1996)に基づいて分析し、リテリングが英文の重要な部分を読み取るのに影響を与えるか検証した。本研究により、リテリングが学習者の英文読解を促すという十分な証明には至らなかったが、教育的示唆を得ることができた。